

まちの歴史を伝えるために

わたしたちのまち、置戸町。和人の移住が始まるまでは、アイヌ民族が狩猟をする場であったと伝えられています。置戸定住者第1号は、明治31年に現在の豊住地区付近に居を構えた平村エレコークとその家族でした。それから約120年が過ぎ、人々は厳しい自然と共存しながら、この地で生活してきました。今回は、まちの歴史について2つの取り組みを紹介します。



1. 馬頭観世音大菩薩（勝山神社）2. 旭入植地水没記念碑（鹿ノ子ダム）3. 森林軌道を走るSL、カボチャ号。森林鉄道は大正10年から40年間、伐採した丸太を駅土場へ運んだ。

おけとの歴史を訪ねるバスツアー

置戸の開拓と森林鉄道などの歴史跡をめぐる町文化連盟主催の歴史探訪ツアーが、8月19日に開催されました。この催しは、豊住・境野・秋田地区をめぐる昨年度のツアーに続く第2弾。福祉バスに乗車した参加者35人は、中里・安住・勝山地区の石碑をめぐるしました。

車内では、郷土史家の高橋和夫さんと田村昌文町文連会長が、当時の置戸のエピソードを紹介。中置戸貯木場跡からスタートしたツアーは、春日小学校跡、勝山神社などをめぐりました。勝山地区出身である参加者からは「祭りのときには、演芸会を見て盛り上がったね」、「今まで知らなかった石碑もある」などと話を交わしていました。

春日地区で生まれ育った川崎ともえさん（若

木）は「みんなでゆっくり町内をみてまわることができて、とても楽しかった。石碑に家族や昔馴染みの名前が刻まれているのがわかり、嬉しいですね」と感想を笑顔で話してくれました。

田村昌文会長は参加者に「石碑は表側だけではなく、左右や裏側に書かれた氏名を見るのも楽しみ。寄附者の氏名が刻まれるのが一般的ですが、鹿ノ子ダムにある旭入植地水没記念碑の場合、当時の入植者の氏名が刻まれています」と説明。

「石碑をめぐり、この地で生きた多くの人たちの物語を知ってほしい」と語りました。

町内には、町郷土史研究会が建立したものを含め50基以上の歴史石碑があります。おけとの歴史を後世に伝える先人の足跡をみなさんも訪ねてみませんか。

【お問い合わせ】中央公民館（☎52-3075）